

## 科研費の平成23年度予算案と基金化に関する説明

### 科学研究費補助金の拡充と制度改革

（平成23年度予算案2,633億円  
平成22年度予算額2,000億円）

#### 平成23年度予算案の概要

- ◆若手研究者の「チャレンジ」機会の拡大
  - 若手研究者向けの「若手研究（A・B）」を拡充。  
特に、若手研究者支援の主要な研究費である「若手研究(B)」について、新規採択分について採択率30%（試算\*）及び基金化を図る
    - ・若手研究(B)→新規採択分として262億円（平成24年度以降の研究費相当分124億円を含む）を確保
  - 「挑戦的萌芽研究」について、新規採択分について採択率30%（試算\*）及び基金化を図る
    - ・挑戦的萌芽研究→新規採択分として135億円（平成24年度以降の研究費相当分57億円を含む）を確保、間接経費の措置

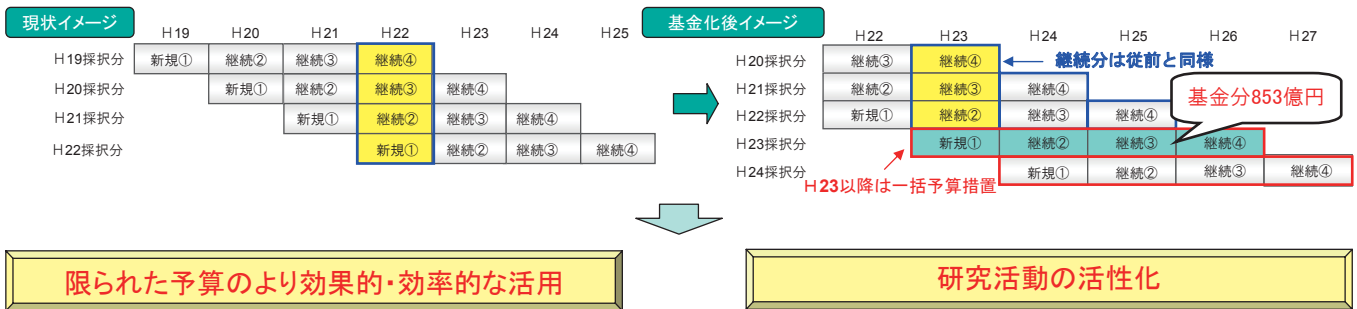
#### 学術研究助成基金（仮称）により研究費が使い易く！

- ◆多様な学術研究を支える「基盤研究」の充実
    - 「基盤研究（A・C）」を拡充。特に「基盤研究(C)」について、新規採択分について採択率30%（試算\*）及び基金化を図る
      - ・基盤研究(C)→新規採択分として451億円（平成24年度以降の研究費相当分249億円を含む）を確保
  - ◆新たな研究領域の開拓
    - 「新学術領域研究（研究領域提案型）」を拡充（年次進行、対前年度55億円増）
- （\*）22年度採択状況を基に試算）

#### 抜本的な制度改革「基金化」の実現

#### 新規採択の約8割が対象

- ◆新しい、柔軟な発想が期待されるとともに、研究規模が小さく多くの研究者が対象となっている「若手研究(B)」「挑戦的萌芽研究」「基盤研究(C)」を対象に、平成23年度から、新規採択分について複数年にわたる研究費の使用を可能とする「基金化」を図る
  - 予定外の進展があった研究について前倒して実施することを含め、研究費の柔軟な執行が可能となる。
  - 複数年にわたって研究費の使用が可能となり、研究に専念できるとともに、ムダな「予算の使い切り」がなくなる。



限られた予算のより効果的・効率的な活用

研究活動の活性化

### 「科学研究費補助金の拡充と制度改革」の補足説明（概要）

#### 各研究種目の拡充について

- 「若手研究(B)」、「挑戦的萌芽研究」、「基盤研究(C)」については、採択率が30%程度に向上するよう拡充を図っています（前年度の応募状況に基づき試算）。
- 「基盤研究(A)」、「若手研究(A)」については、それぞれ採択率の向上を図っています。
- 「挑戦的萌芽研究」に新たに間接経費を措置しており、新規、継続いずれの研究課題も措置の対象となります。
- このほか、「新学術領域研究（研究領域提案型）」等の拡充を図っています。

#### 一部研究種目の基金化について

- 「若手研究(B)」、「挑戦的萌芽研究」、「基盤研究(C)」については、「基金化」を図るための予算を計上しています。これらの研究種目以外は、平成23年度にあっては基金化対象ではありません。
- 「基金化」によって、新規採択された研究課題については、計画の最終年度までの研究費が基金に確保されることとなります（図の右下ミドリ色のマス目の部分）。これにより、複数年度にわたる研究費の使用が可能になります。
- 複数年度にわたる研究費の使用が可能になるのは、「基金化」の対象となる3つの研究種目のうち、「平成23年度新規採択研究課題」からで、平成22年度以前に採択された継続研究課題は対象になりません。
- 基金化の対象とならない研究課題については、平成23年度も従前と同様の単年度補助金事業として交付されます。
- 「基金化」については、「独立行政法人日本学術振興会法」の改正が必要となります。改正法案は、2月4日に閣議決定され、現在国会に提出されています。「基金化」の対象となる3つの研究種目の「平成23年度新規採択研究課題」の採択通知（交付内定）は、国会における法案審議を経て、法律の改正後になります。
- 「基金化」分の予算約853億円のうち約429億円については、平成24年度以降の研究費相当額（後年度負担分）として確保しているものです（平成23年度に全額を配分するものではありません）。

※2月4日、「基金化」に必要な関連法案を国会に提出しました。

# 4. 科研費トピックス

## 科研費パンフレット2011について

科学研究費補助金のパンフレット2011年版を作成しました。

2011年版から従来の簡略版（8ページ）に加え、詳細版（32ページ）を作成しています。

詳細版では、科研費の概要、応募・審査・補助金の使用・評価、適正な使用の確保、科研費の研究成果の公開、科研費の情報発信・広報普及活動、イノベーションの芽を育む科研費などについて、より深く科研費を御理解いただくために内容を充実しています。

特に科研費の応募・審査・補助金の使用については、11ページに渡り、公募から内定までの全体の流れ、科研費への応募、審査、学術システム研究センターの役割、これまでの審査制度の改革、より使いやすい研究費への改善などについて、多くの図表を用いてよりわかりやすく解説しています。また、イノベーションの芽を育む科研費では成果展開事例を多数紹介し、更に充実しています。

科研費パンフレット2011は以下の文部科学省及び日本学術振興会のホームページからダウンロードできます。

### 文部科学省の科研費ホームページ

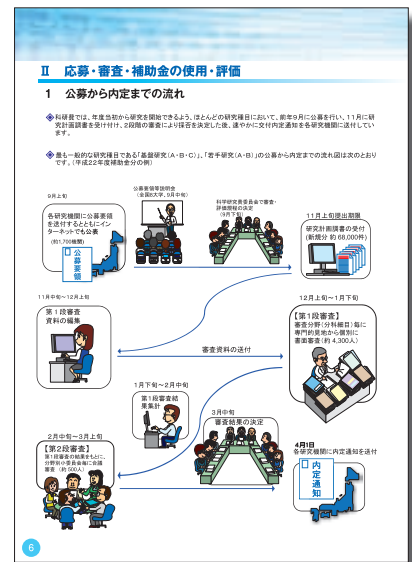
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/1299603.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1299603.htm)

### 日本学術振興会の科研費ホームページ

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24\\_pamph/index.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24_pamph/index.html)



目次	
<b>I 科研費の概要</b>	
1 科研費とは	1
2 科研費の応募・研究種別と予算	2
3 科研費の「研究種目」	4
<b>II 応募・審査・補助金の使用・評価</b>	
1 公募から内定までの流れ	6
2 科研費への応募	7
3 科研費の審査	8
4 審査の具体的な進め方	9
5 学術システム研究センター	10
6 審査委員の選考方法	12
7 審査結果の開示	13
8 審査制度の改革	15
9 使いやすい研究費への改善	16
10 課題解決後の評価	16
<b>III 適正な使用の確保</b>	17
<b>IV 科研費の研究成果の公開</b>	18
<b>V 科研費の情報発信・広報普及活動</b>	18
<b>VI イノベーションの芽を育む科研費</b>	21
【参考資料】	
○ 科研費の配分結果	24
○ 「高・分野・学科・種目別」	28



「我が国における学術研究課題の最前線」を公開

日本学術振興会において審査を行った研究種目のうち、科研費の中でも大型研究種目として位置付けられ、国際的に高い評価を得ている研究であって格段に優れた研究成果が期待される「特別推進研究」をはじめ、特別推進研究に次ぐ研究費の規模である「基盤研究(S)」について、平成22年度の新規採択研究課題の研究概要等を、図や写真を用いて分かりやすく取りまとめた資料「我が国における学術研究課題の最前線」(和文・英文)を公開しております。

以下の日本学術振興会のホームページからダウンロードできます。

〈和文〉 [http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30\\_front/22\\_wabun.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/22_wabun.html)

〈英文〉 [http://www.jsps.go.jp/english/e-grants/grants12\\_2010.html](http://www.jsps.go.jp/english/e-grants/grants12_2010.html)

